

令和8年2月17日

東浦町議会議長 殿

議会広報特別委員会  
報告者 赤川操恵委員長

## 視察報告書

1. 視察年月日           ①令和8年1月26日（月）  
                          ②令和8年2月5日（木）
  
2. 視察先①            1月26日（月）神奈川県足柄上郡開成町  
                          （人口：18,712人※令和8年2月1日現在   面積：6.55km<sup>2</sup>）  
    視察先②            2月5日（火）静岡県駿東郡長泉町  
                          （人口：43,569人※令和8年2月1日現在   面積：26.63km<sup>2</sup>）
  
3. 参加者              議会広報特別委員会  
                          赤川操恵 大川晃 北野興地 長坂知泰 水野久子 森靖広  
                          議会事務局 勝亦亜希子
  
4. 視察の目的         ①神奈川県足柄上郡開成町  
                          「デジタル技術を活用した広報紙について」  
                          ②静岡県駿東郡長泉町  
                          「町民と作る議会だよりの取り組み」
  
5. 視察の概要及び所感

### ☆開成町 「デジタル技術を活用した広報紙について」

#### 開成町議会

定数 12名（男性9名、女性3名）

常任委員会（総務経済常任委員会、教育民生常任委員会、広報広聴常任委員会）

議会運営委員会

#### 広報広聴常任委員会 定数11名

【議会だよりの】

発行：年4回（定例議会ごと）

発行部数：7,800部 ポスティングによる全戸配布

編集方法：広報広聴常任委員会 広報分科会で編集  
昭和46年9月より発行、議会ウェブサイトに掲載

## 議会広報改革 「読む」から「見る」=魅せる改革

- ・広報紙とウェブサイトの両輪で広報改革を推進 令和3年8月1日号から
- ・「一人でも多くの町民に、まずは手に取ってもらいたい」「1ページでもめくってもらいたい」という信念で毎号デザインや構成に変化をつけて発行
- ・令和4年5月1日号から、形式をタブロイド判に変更（広報発信のすみ分けのため）

### ◆なぜ今「読む」から「見る」なのか

- ・情報を迅速に発信する必要性 議会活動の発信も迅速化が必要。約2か月後の広報に掲載するのでは遅い
  - ・情報をわかりやすく発信する必要性
- ⇒動画を取り入れて議会から話しかけ、呼びかける。「見ていただく」ことが必要

### ◆なぜ議会独自のウェブサイトを作ったのか

- ・町ホームページでは容量が不足してしまう
  - ・情報にたどり着くまでに3~4クリック必要のため「見やすさ・わかりやすさ・探しやすい」の実現が難しい
- ⇒そのために議会独自のウェブサイト開設  
しかし、全てをデジタル化すべきではないため、紙面での発信も継続している

### ◆ウェブサイトの特徴

- ・毎月変わるインパクトのあるトップページムービー
- ・2クリックで得たい情報にたどり着く
- ・視覚のバリアフリー化 ユニバーサルデザインを取り入れた。

☆自己紹介ムービー クリックすると議員が動き、議員自らが話し出す

☆委員会紹介ムービー

☆一般質問 Before⇒Question⇒After 形式で日本一短く動画（20秒）で説明

Before：一般質問概要（約20秒）

Question：議会インターネット録画配信

After：終了後インタビュー（約20秒）

### ◆広報キッズモデルの採用（令和5年度から）

広報を協働で作成し、若い世代にも議会に関心を寄せてもらうため

### ◆開成町議会の議会改革の取組み

- ・通年の会期制 ・日曜議会 ・議会 ICT 化の推進 ・議会報告会 ・議場の利活用
- ・議会映像インターネット配信 ・小学校への出前授業 ・議会インターンシップの受け入れ

#### ◆政策条例の制定

- ・開成町議会ハラスメント防止条例 ・開成町読書推進条例

#### ◆改革や取り組みの本当の成果として

- ・議会だよりについて賛否が届くようになり、若い世代にも手に取って読んでもらえるようになった
- ・動画を多く取り入れた議会ウェブサイトを通して、議会を知る機会の創出につながっている
- ・YouTube の再生回数等がリアルな反応として、議会に届き、議員も活動に日々実感もてるようになった
- ・身近な議会となるために、議員自らが動くことが浸透し、開かれた議会の実現につながっている
- ・議場の利活用により、児童に議会に対する関心や理解が深まっている

#### ◆どのようにして取り組みや改革を実行しているのか

- ・開成町議会議員 12 人のフットワークの良さを生かして活動
- ・それぞれの議員が地域に溶け込み、その地域の特性や実態を熟知している
- ・議会改革の視点 住民に議会への理解や関心につながらなければ意味がない
- ・開成町議会の覚悟 「わたしたちのまち」は議会から変える

#### ◆改革や取り組みを進める上で

- ・議会活動が「議員」ではなく「議会」活動として住民目線での改革や取り組みになっているか
- ・幅広い世代に議会に関心を寄せていただく改革や取り組みとなっているか
- ・新たな取組みのため、事例が少なくノウハウがないが、目的が明確であるので、速やかに成果や結果が出なくても一過性の改革や取り組みではなく将来的に継続していくことが重要
- ・「今」の改革や取り組みが時勢に合わない場合は、見直す勇気が肝要

#### 「全ては町民のために 町民とともに」

広報を最大のツールとして、多岐にわたる議会の改革や取り組みを連動したアクションとして展開

《所感》

○議員と議会事務局とがチーム一丸として取り組んでいる姿勢が結果に表れており、年間 90 件もの視察が来ていることが、より一層研鑽していくキッカケにもなっていることに感心した。

○開成町議会では、これまでのように「文章を読んでもらう広報」だけでなく、「見て分かる広報」へと大きく発想を変え、専用のホームページや動画を中心に情報発信を行っていた。特に一般質問については、質問前の事前説明、実際の質問の様子、終了後のまとめを一連の動画として発信し、字幕や再生速度の調整機能も付けることで、誰でも内容を理解しやすい工夫がされていた点が印象的であった。また、議場を地域に開放し、小学校の授業や出前講座、自習室としての活用、さらにはインターンシップの受入れなどを通じて、子どもや若い世代が議会を身近に感じられる取り組みも積極的に進められていた。こうした活動は、主権者教育の観点からも大変意義のあるものであると感じた。これらの取り組みは、議員だけでなく事務局職員も含めた「チーム議会」として一体的に進められており、無理なく継続できる体制が整えられていた。本町においても、デジタルを活用した広報の充実と、住民参加や教育の視点を組み合わせた議会改革を検討していく必要性を強く感じた。

○平成 22 年に議会基本条例を制定し、第 14 条に議会広報の充実を掲げ、1 項に議会として、「町政に係る重要な情報を議会独自の視点から常に町民に対して分かり易く周知するよう努めるものとする」としている。

更に、2 項で「情報通信技術の発達を踏まえた多様な広報手段を活用することにより、多くの町民が議会及び町政に関心をもつよう議会広報活動の充実強化に努めるものとする」と条例を後ろ盾にした議会広報活動を謳い込み、時代に合わせた議会広報活動を展開している。

議会の覚悟として「わたしたちのまちを議会から変える」をコンセプトに 12 名の議員全員が時勢にあった「読む」から「見る＝魅せる」への大胆な議会広報改革を行い、令和 4 年 9 月からは広報紙とウェブサイトの両輪で広報改革を推進・実践している。

令和 5 年度から斬新的な取組として、広報を協働で作成し若い世代も議会に関心を寄せってもらうため「広報キッズモデル」の募集を開始してその親世代や祖父母世代にも議会をより身近に感じるようにしている。

広報を最大のツールとして、多岐にわたる議会の改革や取組を連動したアクションとして展開している。

○今、情報収集は SNS で検索し、即時受け取る時代。情報を迅速にかつ分かりやすく発信する必要がある。かつ、情報はわかりやすく発信する必要もある。デザインやコンテンツが良くなければ伝えたい内容までたどりついてもらえない可能性がある。多様な動画を取り入れて、議会から話しかけ、呼びかけ、関心を持たせる、見ていただくことが

重要と考え、「読む」ウェブサイトから、「見る」ウェブサイトへ。

議会独自のウェブサイトを開設。

毎月変わるインパクトのあるトップページムービー。コンテンツを整理し2クリックで得たい情報にたどり着くように。

議員紹介ページでは、クリックすると、議員が動き、話し出す。

委員会報告は、短い動画で配信。広報キッズモデルを募集。

「一人でも多くの町民に、まずは手に取ってもらいたい」「1ページめくってもらいたい」という信念を持ち、毎号デザインや構成に変化を付けて発行。

令和3年、議会だよりのデザインを一新、それが、令和3年8月1日号が令和3年度全国町村議会広報コンクールで奨励賞（編集・デザイン部門）を受賞したことにより、議会だよりの改革。

議会だよりは、「読む」ではなく「見る」ものであるという信念で作成しているのが良くわかった。

毎号変わる、インパクトの強いトップページが見る人の関心を、興味をしっかりとつかむと思われる。今すぐに、同じような動画配信は難しいが、まずは、議会基本条例の制定からはじめ、議会広報特別委員会を常任委員会にし、名称も議会広報公聴委員会として組織し、議会改革と同時進行で、議会広報のリニューアルを考えていくべきと感じた。

○開成町の面積は 6.55 k㎡ 東日本最小の町。人口も 1 万 8 千人ほどでありながら、人口増加率 7.7%、県内第 1 位、全国 16 位。年少人口割合、県内第 1 位、若い子育て世代に選ばれるベッドタウンと理解した。

・その中で開成町議会では、①議会活動が 2 か月後の広報に掲載では遅い・・・情報を迅速に発信する必要性 ②町ホームページから 3~4 クリックして探す・・・動画などで、情報を分かりやすく発信する必要性を感じ「読む」ウェブサイトから「見る」ウェブサイトに変革をとげ、議会独自のウェブサイトを開設するに至った。かなり画期的と感じたが、議会改革の一環として行っていること。5 年間のプロポーザルで 1 千万円の予算をかけていることに驚いた。

・広報公聴委員会は、常任委員会の位置づけとなっており、広報改革として公聴を議会に取り入れることを重視されていることに共感できた。

・広報改革は、議会改革と直結していると痛感した。

○説明の最後に、開成町様が作成された東浦町の紹介動画を拝見しました。動画の持つわかりやすさが実感され、東浦町議会でも議会として動画作成、発信の取り組みを進める必要性を感じました。

## ☆長泉町 「町民と作る議会だよりの取り組み」

### 長泉町議会

定数 16 名 （男性 13 名、女性 3 名）

常任委員会（総務経済常任委員会、建設文教常任委員会、広報公聴常任委員会）

議会運営委員会

広報広聴常任委員会 定数 8 名

【議会だより】

創刊 昭和 47 年 1 月 1 日第 1 号発行

形式 A4 版 オールカラー

発行 年 4 回（5 月、8 月、11 月、2 月）各号 1 日

発行部数 18,000 部（増減あり）

配布 各区長を通じ全世帯に配布

編集方法 広報広聴常任委員会で編集

#### ◆リニューアルまでの経緯

・住民ニーズに答え、わかりやすく、より多くの町民に読んでもらえる広報紙を目指したい！！

⇒様々な研修を受け、時代に合わせた構成や理解しやすい紙面の作成方法など研鑽を重ねる

#### ◆紙面の全面リニューアルに伴い、愛称の公募（全国から）を実施

全国から 379 通の応募。町内の中学生が考えた「議会は未来をつくる場所。より良いまちの未来を願って」との思いがこめられた「みらいずみ」に決定

・リニューアル時の予算 684,200 円

・主な仕様

- コンサルティング業務（訪問 3 回・オンライン 4 回）
- リニューアルデザイン作成業務

#### ◆令和 6 年 5 月発行 210 号 議会だよりリニューアル

『幅広い世代に関心を持ってほしい！』

紙面デザインには、

- ① 写真を多く使う
- ② 余白をしっかりと取り、読みやすさ重視
- ③ 優先順位を決め、タイムリーで正確な情報を伝える構成。

『親近感を持ってほしい！』

町民インタビューを実施。町民の声を写真付きで掲載することで、親近感を持ってもらうことができ、更に読者の獲得にもつながると考えた。

⇒議員が直接取材に行き、リアルな声をキャッチすることで、町政にも生かすことができる。

◆「わが町発見クイズ」

抽選で10名に図書カード1000円贈呈

はがき、FAX、二次元コードを使い、議会だよりへの感想を書いて応募。全国から応募がある。

◆「議員のお作法」

議会に向けての心構えを議員がリアルに紹介

◆SNS（Instagram、Facebook）、YouTube 動画の配信

- ① 議会の活動をタイムリーに
- ② 写真や動画でわかりやすく
- ③ 内容はコンパクトにまとめて

《所感》

○広報広聴を常任委員会としていて、総務民生と建設文教のそれぞれの委員会から4名ずつ選出されていることは、記事を作る上で良いと感じた。

紙面構成では、写真が多く使われていてイラストに頼らずに自分たちで写真を撮りに行っていることに感心した。

リニューアルに対してコンサルを利用していたが、その後、議会事務局を主体に編集ソフト（パーソナル編集長）を利用し自分たちで作り上げていたが、編集ソフトの引継ぎには苦労されているようでした。

○長泉町議会の議会広報の取り組みは、「どうすれば住民に読んでもらえるか」という視点を出発点に組み立てられている点が、とても印象に残った。紙面づくりでは、写真を多く使いながら余白を上手に取り入れ、表紙には数字を大きく示すことで思わず手に取ってみたいくなる工夫がされていた。さらに、ページをめくり最後まで読んでもらうための流れも意識されており、読みやすさと関心の持続につながっていると感じた。また、住民から写真を募集したり、感想や意見を寄せてもらう企画を設けたりするなど、住民が広報紙づくりに関われる仕組みが整えられており、議会をより身近に感じてもらう工夫が実践されていた点も大きな学びであった。加えて、SNSを活用した情報発信により、定例会と定例会の間の情報不足を補い、タイムリーに議会活動を伝えている点も先進的である。本町議会においても、広報内容の見える化をさらに進めるとともに、住民参加の視点を取り入れた広報改革を進めていく必要性を強く感じた。

○議会広報紙の名前を公募にて決定したり、表紙等も町のシンボルカラーの水色・黄色を上手く配色し、爽やかさが感じられ誰もが手に取り易い。記事は、見出しなどに金額・人数・割合などの数字を大きな文字で現すことで興味を持たせ、記事への掴みが巧みである。記事の関連写真や住民の家族写真を上手く配置し、文字スペースに余裕があり非常に読み易く、「わが町発見クイズ」も織り込んでいて非常に参考になった。

広報公聴常任委員会として、委員長以下8名体制と充実しており、町民への取材やインタビューが多数載っているため、町民と一体となって広報紙を作っている実感がある。○住民ニーズに応え、わかりやすくより多くの町民に読んでもらえる広報誌に。様々な研修を受け、時代に合わせた構成や理解しやすい紙面の作成方法などの研鑽を重ねる。紙面の全面リニューアル、住民と一緒に議会だよりを作りたいということで愛称を公募。リニューアル時から、コンサルティング業務を随時契約で委託。リニューアルデザイン作成業務(表紙、裏表紙、中面それぞれのデザイン案を作成、調整および修正)を委託。このデザイン案に沿って、各委員で、検討。議会だよりに親近感を持ってもらうため、住民インタビューを実施。住民の声を写真付きで掲載することで、新たな読者の獲得や、議員が直接取材に行くことで、リアルな声をキャッチでき、今後の調整に生かすことができる。わが町探検クイズで、回答と感想を募集(景品付き)。住民の思いがけない回答や感想も。

本町の議会だよりは、住民の掲載が少ないので、積極的に取り入れるようにしていくべきと感じた。

キッズモデルを募集は、大変参考になる。取り入れていくべき。

本町の紙面では、積極的に写真を取り入れてはいるが、それらしいものがないと、撮りに行くか、挿絵となるが、やはりリアルな写真が関心を得るので、余白も多く取り入れて、見やすさを追求していくべきと感じた。

○こちら広報公聴常任委員会として平成25年に常任委員会化したという事であった。任期は2年毎。新人3人を含め、総務民生常任委員会から4人、建設文教常任委員会から4人、あと事務局で構成。昭和47年に創刊。オールカラー定例会に合わせて年4回発行。部数は1万8千部を区長を通じて配布。予算額は192万1千円。リニューアルしたのは、住民のニーズに応え、わかりやすく、より多くの町民に、手に取ってもらおうという事だった。住民の意識調査では、町の広報は75%が見ているのに対し、議会ながいずみ(旧議会広報)は、22%であり、まず関心を持ってもらう、手に取ってもらう、というように、見やすくしていくという方針が決まった。リニューアルに際し、時代に合わせた構成にするため、コンサルを導入。(株)会議録センターにデザイン作成と指導をいただいた。契約額は68万4千2百円(リニューアルのみ)。愛称は、全国から募集。379通集まったが、地元の中学生の、「議会は町の未来を創る場所、よりよい未来を願って」という事で「みらいずみ」が採用となった。

デザインの特徴は、①写真を多く使う ②余白をしっかりとる ③読むのではなく見るという点。また、委員会別でなく、項目別に並べてあるのも、見る人目線と感じた。さらに数を頭にもってきて目を引く工夫を感じた。

当局側に、発行前に事前に見せて修正の余地をとっている点も驚いた。

開成町もキッズモデルがあったが、長泉町も採用していたので、良い制度であると感じた。

○広報紙の色に使われている、黄色・緑・水色の三色は長泉町のイメージカラー。町のいたる所でイメージカラーを目にしたことから町の一体感を感じられた。本町でも取り入れてはと感じました。

※色については、町民ワークショップで選ばれたものを基に制作。自然の豊かさや水の恵みを表す「青」と人の温かさや活力、未来への希望を表す「黄」。そして、その

重なりをブランディング活動を表す「緑」で表現しています。(長泉町ホームページ)



開成町



長泉町